



日本の子供の幸福度

ユニセフ・イノチェンティ研究所が2020年に発表した報告書『レポートカード16—子供たちに影響する世界:先進国の子供の幸福度を形作るものは何か』において、先進国の子供たちの精神的幸福度、身体的な健康と、学力・社会的スキルについてランキングを発表しています。



日本は子供の幸福度(結果)の総合順位で38か国中、20位でした。これを低いと見るか、高いと見るか…この分野ごとの内訳をみると、両極端な結果が混在しています。例えば、身体的健康は1位でありながら、精神的幸福度は37位という最下位に近い結果となりました。身体的健康で1位である要因の一つとして、日本の子供の死亡率がとても低いことが挙げられます。これは、医療・保健制度が充実している表れでしょう。しかし、自殺率は平均より高く、その結果、精神的幸福度の低いランキングとなりました。学力の指標である、数学・読解力で基礎的習熟度に達している子供の割合では、日本はトップ5に入ります。一方で、社会的スキルをみると、「すぐに友達ができる」と答えた子供の割合は、日本は下から2番目に低い結果だったのです。

私は、ユニセフが、本レポートで、「スキル」として、学力だけでなく、社会的スキルを指標として取り入れたことに、とても興味をもっています。人が幸福な人生を歩むためには、学力のみならず、社会的スキルが重要であることが国際的にも認識されてきたからです。ここで気を付けておかなければならないのは、「多くの友人がいない=悪いこと」ではないということです。ここで大切なことは、友達をつくろうと思ったら、すぐできるという環境があるのかどうか、そこが問われてくると思います。

幸いなことに、本校では、社会的スキルをたくさん身に付けることのできる特別活動を「わくわく」する学校創りの中の大切な柱の一つとして取り組んでいます。例えば、たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動、学校行事、係・当番活動、学級活動など、特別活動を通して、人づくりを行っているのです。特別活動の充実によって、子供たちの「幸福度」に大きく貢献すると思っています。